

# 産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(R1年度:計画作成主体:伊達地域果樹産地協議会)(福島県)

## 取組の概要

取組の概要 : 果樹(もも)(産地面積:156ha)  
 主な取組主体 : ふくしま未来農業協同組合  
 成果目標 : 輸出向け出荷量の10%以上の増加  
 基準(H30年度) 1,500kg  
 目標(R3年度) 3,000kg  
 導入施設等 : 整備事業(光センサー選別システム一式)



## ポイント

### 【産地の課題及び取組方向】

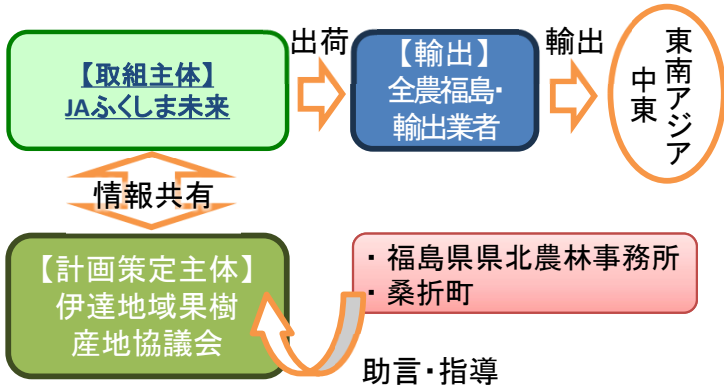
ももは、貯蔵性に欠け傷みやすい特徴があり、即日の選果処理が要求される。産地間競争が激化している中、原発事故の影響等により単価が伸び悩み、農家所得の低調推移、担い手の高齢化・後継者不足などにより、担い手不足が深刻化している。

このため、販路拡大のため国内市場だけではなく、海外への輸出を視野に入れた長距離輸送に耐えられる選果システムの導入が求められている。

### 【産地の体質強化に向けた方策】

- ①輸出の長時間輸送による果実傷害の発生・拡大を抑制するため、果実が傷みにくく、選果速度の速い光センサー選果システムを導入する。
- ②選果効率を高め、人件費及び集出荷コストの削減に繋げる。

## 推進体制



## 取組成果

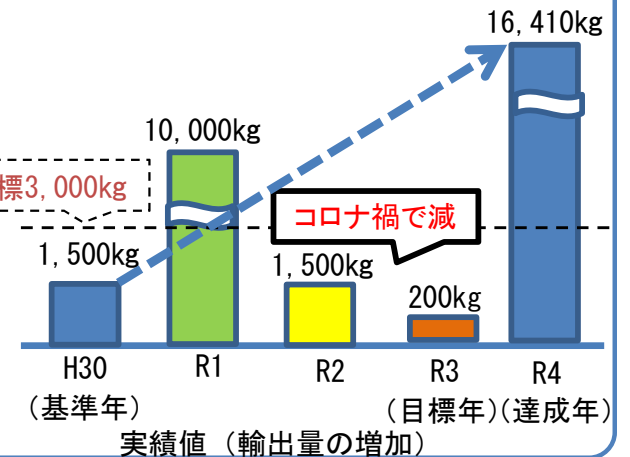
### 【事業実施による直接効果】

- ①果実が傷みにくい選果システムにより、出荷後の傷害発生が抑制
- ②選果処理時間短縮(処理スピード20%増)及び処理ライン縮減(4条⇒3条)による省力化

### 【事業実施による間接効果】

- ①コスト削減により農家所得が増え、共選への出荷が増加
- ②選果結果の個々の農家へのフィードバックによる栽培技術・品質の向上
- ③新規就農者・希望者の増加

**輸出量が  
1094%増加  
(達成率994%)**



## 地域における独自の取組

- ・定期的な栽培技術講習会・出荷指導会の開催
- ・ももせん孔細菌病対策として防除薬剤費の購入助成実施。
- ・新規就農者向けの町単独補助事業の実施

